

ソマリア難民の流入——

ジブチでも深刻に

内紛と飢饉で国外流出を続けるソマリア難民が近隣国の負担になっている。ケニアへは国内のNGO四団体が共同プロジェクトを組んで今年二十二、二十三日出発したが、ジブチ共和国でも深刻な問題になっている。



駐日ジブチ大使館のラシヤド・ファラ大使は昨年暮れ、輸出入関係のある日本企業や、アジア医師連絡協議会（AMDA）に救援を要請。今年二十日、ケニアへスタッフを派遣しているアフリカ教育基金の会、立正佼成会平和基金などと東京で記者会見した。

人口四十万人の小さな国。干ばつ被害で経済状況は苦しいが、政治的には比較的安全しているため、以前から政治不安定なエチオピア、ソマリアの難民を受け入れてきた。大使によると一九九一年初めごろからソマリア難民が増加。政府は同年六月、ソマリアに近い

日本の資金援助を

生活用品不足、病院も満員

駐日大使訴え

ソマリアの北、紅海入り口に面したジブチ共和国は

南部のアリ・サヒエラ地区に難民収容キャンプ四方所を建設。エチオピア難民用の一方所を含め二万五千人が国連難民高等弁務官事務所、世界食糧計画などの援助を受けているが、飲料水など都市基盤の整備が十分でない。

さらに首都ジブチも推定六万五千人の難民が路上で生活しており、犯罪も頻発している。政府は昨年四月から五月にかけて収容キャンプへ移送したが、キャンプでも生活用品が不十分なため大部分の難民が首都に戻ってきてしまった。

現在も毎日百—二百人の難民が流れ込み、キャンプには医療機関がないため首都の病院はとも難民でいっぱい。大使は「人口の二〇％を難民が占め、主要な病院のベッドは七五％が難民と言われている。エチオピア、ソマリアなど広範囲の難民を一手に引き受けている状態だ。我々と難民を助けてほしい」と訴えた。マラリア、結核の流行、栄養失調に対応するためAMDAは今月末に日本人医師二人を派遣、二月以降も看護婦やネパール、バングラデシュの医師を派遣する。AMDA本部の菅波茂さんは「難民キャンプ付近に診療所を開設するほか、車で巡回診療したいが、医者も看護婦も簡単には休暇

をとれないので派遣できるのは二十人くらい。費用は五千万円くらいかかりそうなので外務省の資金援助も仰ぎたい」と話している。



「ジブチの病院はソマリア、エチオピアなど広範囲からの難民を受け入れて満杯」と地図を示すラシヤド・ファラ大使